

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.185

発行:令和2年8月1日

講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

「神楽岡公園 夏の自然観察会」

とき 令和2年8月16日(日)

午前9:30~11:30 定員15名

講師 森の写真家 阿久津 弘明さん

森林インストラクター 佐藤 まゆみさん



新講座

「おいしい野菜を作るための土づくり講座」

とき 令和2年9月26日(土)

午後1:30~3:30 定員20名

講師 緑のセンター相談員



「旭川でハマボウフウを育てよう」

とき 令和2年9月27日(日) **500円**

午後1:30~3:30 定員10名

講師 緑のセンター相談員

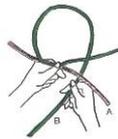


「庭木の冬囲いを覚えよう」

とき 令和2年10月3日(土)

午後1:30~3:30 定員10名

講師 公園緑地協会職員(緑のセンター)



「ヒオウと秋植え球根の寄せ植え」

とき 令和2年10月4日(日) **1,000円**

午後1:30~3:30 定員10名

講師 緑のセンター相談員



お知らせ

コロナウイルス感染拡大防止のため、

令和2年 神楽岡公園「緑のセンターまつり」開催を中止させていただきます。

展示会のご案内

「押し花展」* 8月1日(土)~ 9月27日(日) * 作品提供:押し花サークル つくしんぼ

「木の実・草の実写真展」* 10月20日(火)~11月29日(日) * 作品提供:神田 亘雄さん

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月~ 3月は毎週月曜日が休館日です。(")



〈園芸の基礎知識〉 植物の根の働き

～ 根の呼吸 ～

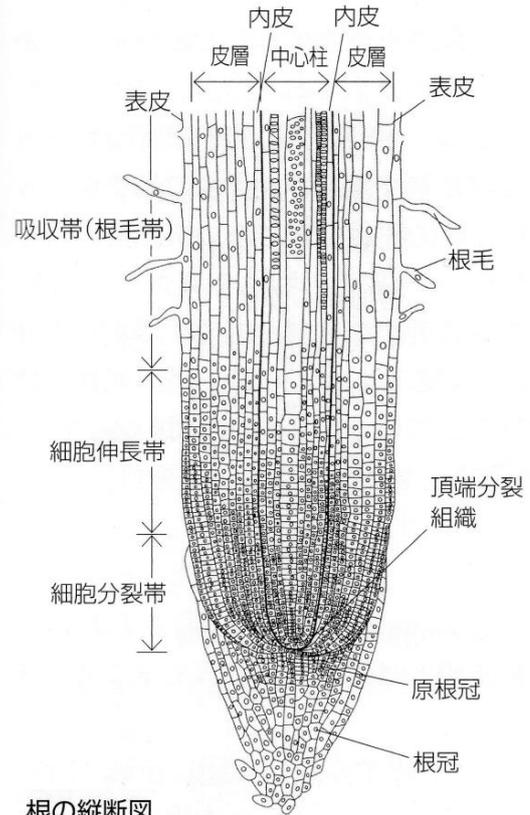
■葉呼吸と根呼吸

植物の呼吸には葉呼吸と根呼吸がありますが、「葉呼吸」とは地上に表れている部分による呼吸、「根呼吸」とは地下（土壌域）に埋まっている部分による呼吸です。根における呼吸とは、地上部から輸送されてくる呼吸基質としての有機化合物が酸素によって分解されてエネルギーが取り出される代謝です。

■根における呼吸の機能

根を構成する細胞も呼吸をしていますので、酸素を吸収し、二酸化炭素を排出しています。根の細胞への酸素（空気）の供給には二つの経路があります。根の表皮、内皮、維管束以外の細胞の多くは柔細胞で、ふつう大きな細胞間隙を持っています。この細胞間隙はお互いにつながり、葉の気孔内腔へと続いていますので、常に空気の供給源となっています。また、根の細胞間隙は、土壌粒子の間隙にある空気とも表皮の細胞間隙を介して接しています。さらに、根の表皮細胞の細胞壁はクチクラやワックスなどの沈積がほとんどなく、土壌間隙から酸素を直接取り込んでいます。

(参考資料: 日本植物生理学会HP「みんなのひろば・植物Q&A」、農山村漁村文化協会「園芸学の基礎」ほか)



根の縦断図

(ヴェルナー・ラウ『植物形態の事典』より一部改変)

ちょっと楽しい講座のご紹介

緑の講習会「旭川でハマボウフウを育てよう」から



砂浜で育ち特有の香りを持つ初夏の高級珍味のハマボウフウは、独特の風味と食感で高級料亭でしか味わえなかった時代がありました。海岸の砂浜にしか自生していないハマボウフウを、内陸の旭川で育ててみようという講習会を平成元年9月に当センターの相談員を講師に開催しました。

セリ科のハマボウフウの茎は砂に埋まり、根は太い直根が水分を求めて長く伸びる一方、細い根が水平方向に広がって地上部分を安定させます。6～8月には白色5弁の小花が開花して複散形花序を作ります。このように葉や花を楽しむほか、砂に埋まった茎と砂から顔を出した若芽を高級食材として、酢味噌和えやてんぷら、ハマボウフウと春雨のサラダなどで楽しめます。

当日は、タネと苗をポットに植え、それを持ち帰ってご家庭で育ていただくことにしました。参加者の中には、すでに栽培に挑戦された方もおられましたが、タネは全く発芽しないということでした。発芽させるためには、種の皮をむくこと、播種後寒さに当てること、そして来年発芽後の移植方法などを学んで3年後の試食を楽しみにしていました。



「高級料亭で味わうハマボウフウの酢味噌和えと日本酒で」を合言葉に！

植物の病害虫

その56 「イチゴの^{い おうびょう}萎黄病」



初期の症状



生育期の症状



根冠部の症状

1 寄生しやすい植物

イチゴ。

2 被害

はじめ芯葉が黄緑色～黄色に変色して縮れます。3小葉のうち1～2葉が奇形(小型)化し、舟形となつてねじれます。奇形葉の発生は株の一方に片寄ることが多くなります。被害株は萎縮して生育不良となり、葉は光沢と生気を失い、下葉から紫紅色に変わって萎凋し、ついには株全体が枯死します。また、新葉の黄化や奇形を示すことなく、急激に下葉から萎縮して青枯状に枯死することもあります。

被害株の根冠部を切断しますと、導冠部が破線状、あるいは導冠部全体が褐色～黒褐色に変色しており、根は黒褐色に腐敗しているものが多くなります。芯葉の黄化、奇形は日中の気温が27℃～28℃以下で発生し、急性萎凋症状は最高気温が30℃を越すような夏季に発生します。

3 生態

土壌および苗によって伝染し蔓延します。イチゴは栄養繁殖によって子株を増殖しますが、親株が罹病するとランナー内の導管を經由して苗(子株)が発病又は保菌苗となります。

イチゴは親株や苗の移動が多く、無病地(採苗床、仮植床、定植圃場)が保菌苗によって汚染され病土化するため無視できません。土壌伝染の場合、伝染原は土壌中に存在する厚膜胞子(菌糸の一部が厚膜化したもの)で、これが発芽してイチゴの根から侵入して発病します。

地温 15～18℃以下では、発病しても被害は軽微ですが、22℃以上では発病は早く、被害も著しくなります。とくに25～30℃前後の時には激発して枯死株が多発します。

品種による発病差があります。「宝交早生」は極めて弱く、「けんたろう」での発生は少ないです。

4 防除法

- (1) 発病株は早期に抜き取り、土に埋設したり畑に放置せず、乾燥させて処分します。
- (2) 親株は無発生圃場から取り、毎年更新します。ランナーもよく選別して無発生圃場で育苗し、無発生圃場で栽培します。
- (3) 抵抗性品種を利用します。
- (4) 発病の危険がある圃場では、作付け前に土壌消毒を行います。

カランコエを毎年咲かせて楽しむ

カランコエは、花色・葉色・株姿など変化に富んで種類も多く、乾燥に強い手間のかからない多肉植物です。上手に管理すると秋から翌春まで長く花を楽しむことができます。

しかし「2年前に買ったときはきれいに咲いていたけど、あれからさっぱり・・・。」などの声を聴くことがあります。

カランコエは、1日の日長の長さが短くなると花芽を付ける性質なので、夜も照明が当たる場所に置いておくと、植物自身が「日が長い」と判断して花芽がつきにくくなります。

「短日処理」をしないと花の咲く時期が遅れたり、咲かなかったりするので、出来れば夜は蛍光灯などの光の当たらない場所で育てるのが好ましい植物です。

……上手に楽しむポイント……

- 陽当たりの良い明るい環境を好むが、夏の直射日光は苦手。
- 花を咲かせるためには10℃以上の環境が必要で、5℃程度では成長が止まる。
- 水やりは控えめに、土の表面が白く乾いたら給水する。(花や葉に水がかかると傷みやすい)。
- 枯れる主な原因は、過湿と低温。2年に一度の植え替えも、水はけの良い土を使用する。
- 花ガラ摘みはコマメに。咲き終わった茎は付け根から切り落とす。
- 開花中も月に1～2回 1,000 倍に薄めた液体肥料を追肥する。

……翌年も花を咲かせるための「短日処理」(7月下旬から)の方法……

花芽を着けさせるため、夕方の5～6時頃から翌朝の7～8時頃までダンボールなどを頭から毎日かぶせて真っ暗な状態(短日処理)にします。こうして日照時間を調整する短日処理を一月ほど繰り返し続けると蕾ができてきます。蕾が上がってくるまでこれを続け、蕾が出たら陽の当たる窓辺で育ててあげてください。



展示室の植物 (91)

インド素馨(インドソケイ) 学名:Plumeria rubra キョウチクトウ科 インドソケイ属

別名を「プルメリア」。原産地は、メキシコ、中米、南米北部なので、寒さにとても弱い植物です。日本では暖かい沖縄地方で見かける程度で、あまり一般的になじみのある植物ではありません。

緑のセンターでは 8 月下旬に美しい花を咲かせます。ただ近年はハダニの猛烈な攻撃を受けて瀕死の状態になり、現在は集中治療中です。優美なその花姿と上品な香りから「気品」の花言葉がありますが、完全復活を期待するところです。

常夏のハワイでは「満月の夜明けに、まだ朝霧に包まれたままのプルメリアの花を集めてレイを作り、好きな人に渡すことができれば、その恋は叶う」という言い伝えがあるそうです。

